

平成26年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立東大和高等学校学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 教務主任、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主幹、生活指導主幹、進路指導主任 学年主幹 計7名
- (4) 協議委員の構成
大学教授 中学校長、東大和署生活安全課少年係長 地域の代表
同窓会長、PTA会長 計7名

2 平成26年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 第1回学校運営連絡協議会 平成26年6月13日(金) 15:40~17:00
会場：本校校長室 内部委員6 協議委員3名、
内容：協議委員委嘱、本校の現状と課題の説明、学校評価についての説明
本校を取り巻く現状についての意見交換
 - 第2回学校運営連絡協議会 平成26年11月28日(金) 15:40~17:00
会場：本校校長室 内部委員7名 協議委員4名、
内容：本校の教育活動についての中間報告、意見交換
学校評価アンケート案(評価委員会案)の検討
 - 第3回学校運営連絡協議会 平成27年1月16日(金) 15:40~17:00
会場：本校校長室 内部委員6名 協議委員4名、
内容：教育活動まとめの報告、学校評価アンケート集計結果の報告
意見交換、学校運営に関する提言、協議委員の学校評価の実施
 - (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 平成26年11月28日(金) 15:30~15:40
本校校長室 協議委員2名、内部委員2名
内容：学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 平成27年1月16日(金) 15:30~15:40
本校校長室 協議委員2名、内部委員2名
内容：アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
学校の理解・学校の意欲・学校の実践の3つの観点に基づいて実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・ 12月 全校生徒 875名 (回答率 99%)
 - ・ 12月 保護者 875名 (回答率 77%)
 - ・ 12月 地域・住民 80名 (回答率 45%)
 - ・ 12月 教育職員 45名 (回答率 100%)
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、施設設備、その他
- (4) 評価結果の概要
 - ・ 回収率について、生徒、保護者、地域とも昨年度を上回ることができた。
 - ・ 学校に対する満足度では、生徒、保護者、教員ともに9割を超す肯定評価を得ている。

- ・ 学校に対して満足している理由は、雰囲気が良い、行事が充実している、生徒会活動が活発、を選ぶ人が多い。
- ・ 分かりやすい授業については、生徒の肯定評価が昨年に比較して10ポイント程度下がっているが、新カリキュラムへの移行で生徒への負担が増えていることが予想される。
- ・ 家庭学習時間2時間以上の生徒が13%である。(昨年13%)特に1・2年生では2%であり、1・2年生時は部活動に全力で取り組み、3年生で勉強に切り替えるパターンの生徒が多いと推測できる。
- ・ 生活指導については、教職員の肯定評価が昨年に比べて約20ポイント下がっている。
- ・ 部活動・行事・進路指導・生活指導について、生徒の9割が肯定的な評価をしている。
- ・ 体罰撲滅の取り組み、いじめ根絶の取り組みについての質問項目を今年度新たに加えた。8割以上の肯定評価を得ている。
- ・ キャリアガイダンスの取り組みについて、約5割の保護者にその内容が伝わっていない。
- ・ 地域の方は、大雪の日の雪かきした生徒や挨拶をする生徒に対して好意的な意見を持っていただいている。学校からの情報発信を約5割の方が肯定評価をしている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 地域や保護者が集まり、広く教育について充実した協議ができた。
- ・ 授業や家庭学習について、学習の実態や授業評価等、貴重な意見交換ができた。
- ・ 自転車通学時の生徒のマナーについての学校の指導について、理解を深めることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 生徒の学習時間を増やすための指導法の工夫は、今後とも必要である。補習、講習を充実させ、進路実績につなげたい。
- ・ 自転車通学マナーの指導の徹底と、その取り組みを地域・住民に対して周知していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営：地域に本校の教育活動を積極的に公開し、地域とパートナーシップを築き、学校評価（自己評価・外部評価）や様々な提言を生かした学校経営を一層推進する。

(2) 学習活動：分かりやすい授業については、生徒の肯定評価が昨年に比較して10ポイント程度下がっているが、新カリキュラムへの移行で生徒への負担が増えていることが予想される。今後は更なる授業内容の工夫改善、教員の授業力の向上を図る。授業以外での学習時間を確保させ、学習の習慣付けと自学自習する態度を養成する。部活動の質を落とさず、部活動に精一杯取り組みながら勉強への切り替えを促す指導を行う。

(3) 特別活動：「協調性・社会性」や「忍耐力・根気」を養うためにも、行事や部活動を一層充実させる。

(4) 生活指導：社会性・規範意識を育成し、自転車通学のマナーと身だしなみについて主体的に守る姿勢と態度を身につけさせる。

(5) 進路指導：今後もキャリア教育を推進し、生徒が自ら個性や適性に応じた進路を選択できる力を育てていくとともに、希望の進路を実現させる。キャリアガイダンスの取り組みについてクラス通信などを通じて保護者に周知し連携を強化する。

(6) 地域連携：行事や部活動などの情報を積極的に提供し、学校に来ていただく機会を提供する。「奉仕」体験活動等、様々な交流活動・貢献活動を今後も推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
4	2	1	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成績

【実績】 職員会議 0回 0人 企画調整会議 0回0人